

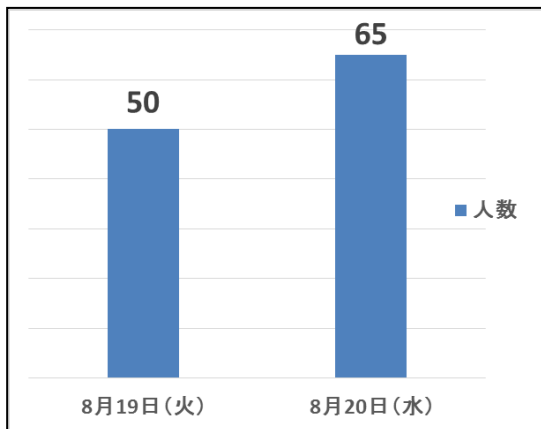
**2014 年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修
 「スクールリーダー育成のための基礎講座」・「学校教育研究フェスタ」
 及び「第 10 回実践交流会」
 アンケート結果概要**

2014 年度 E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修において、各研修の終了後に研修評価アンケートを行いました。8 月 19 日(火)・20 日(水)の「スクールリーダー育成のための基礎講座」・「学校教育研究フェスタ」、ならびに 2015 年 3 月 28 日(土)の「第 9 回実践交流会」において、受講者の皆様にご記入いただいた回答結果の概要をお知らせいたします。

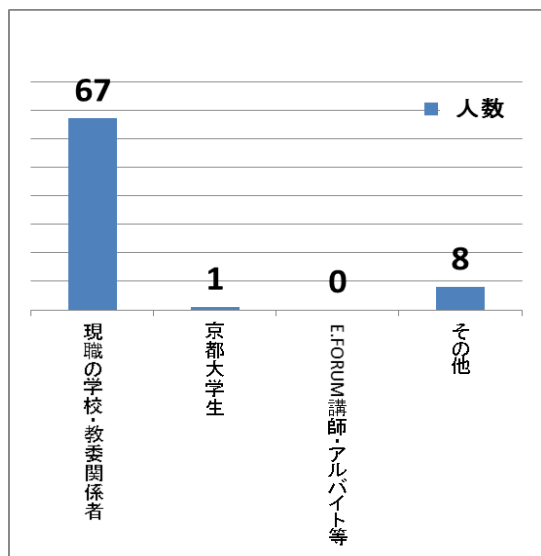
「スクールリーダー育成のための基礎講座」及び
 「学校教育研究フェスタ」

- 1. 開催日ごとの参加人数 ※半日のみ参加も含む**
- | | |
|------------|------|
| 8 月 19 日 | 55 名 |
| 8 月 20 日 | 74 名 |
| * 回答者数 | 74 名 |
| 総参加者数 88 名 | |

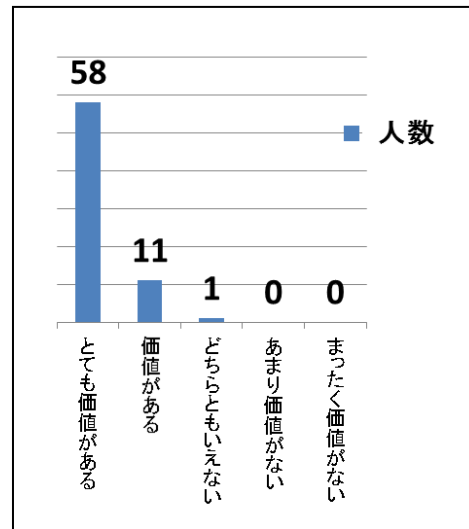
a. 回答者の開催日ごとの参加人数



2. どのような立場で参加されましたか(複数回答可)



3. 研修全体に対する評価



(以下は自由記述による事後評価アンケート)

4. 特に印象に残った部分(抜粋)

① ワークショップ

「若い教師に伝えたい授業づくりのフレーム」: 石井

- ・ 授業の系統性や専門性が若手教員に必要だと言われていました。先生のお話を受けて、ポイントをどう示せばよいか、これから考えていきたいと考えました。
- ・ 教科内容を「知の構造」を用いて構造化することの意味が理解できた。構造化した上で、この単元が、本時の授業が、どの階層にあって何につなげていく必要があるのかを理解して授業をする大切さを痛感した。具体例がたくさんあり、理解が深まりました。ありがとうございました。
- ・ 教科書に対する見方を変えることができました。また”知識”を”内容知”と”方法知”に 2 分することで、何をどのように教えていけばより効果的かということが整理することができました。目標・目的の大切さというのも再確認でき、自身の授業においても見直していきたいと思えます。
- ・ 授業づくりを学習指導要領の枠ありきから語らない視点が大好きです。学校の授業＝要領の枠の中＝極力文句の出ない要領解釈＝薄っぺらな授業(人として育てるのかな疑わしい)が増える中、貴重な視点だと感

じています。

- ・ 知の構造のイメージがぼんやりとしか理解できませんでした。石井先生の講義を聞いてようやく納得できました。今までの知識の点が石井先生の講義をきくことで、線につながり理解できたことで知の構造のしくみを実感できました。授業づくりのポイントも、整理することができ、授業の山場、メインテーマは1つにしぼることの大切さを実感した。
- ・ 若い教師の中でも、初任者よりも10年経験者研修の方に向いているかもしれません。
- ・ 授業での指導技術だけではなく、授業内容や教材の重要性を再認識することができました。特に、授業の中での判断や、授業づくりの成否を規定する判断のポイントは、参考になると思います。ただ、いまいちグループワークをやる理由がわかりませんでした。
- ・ 私も中堅といわれるようになり、若い先生への指導を言われておりますが、「何をどこから」がはっきりせず、多忙な毎日の中で指導できておりませんでした。先生の話の聴いて、頭の中がすっきりしました。「授業のヤマ」を盛り上げながらも本時の目標を外さない・・・そのあたりを若い先生に伝えていきたいと思えます。
- ・ 実際に若い教師が増えていく中で、ベテランと若手の情報共有の場も増やしていかなければいけないと思います。自分自身も改めて教材研究を見直し、配慮、工夫しているところ、意識している点を文章化し、伝え、改善していきたいと思えます。
- ・ 教科書に使われるのではなく、教科書を使っていくという姿勢に必要性を実感しました。「いい授業を見る」「ねたの蓄積」「目の前の子どもをどう力をつけるか」とも大切なキーワードでした。
- ・ 授業を設計する上での基本的なことでありながら、忘れてしまったり、うまくいかなかったりする点でとても分かりやすく話を聴かせていただきました。自分の日頃を振り返るよい機会になりました。
- ・ 教師が想定するまとめを超える子どもの姿を目指していくことなど、大変共感できる内容が多くありました。教育実習を担当している際に、学生に伝える参考にしたと思いました。パワーポイントの字が多く、見づらいと感じるページもあったので、先生の生の言葉で伝えていただければ心にと響くこともありますので、ご一考いただければと思います。また、最後のころがとても早足になり、もっとじっくりとお聞きしたいなと感じました。

※学生の回答

- ・ 私は大学院生ですが、授業づくりの方法はとても勉強になりました。教壇に立つ機会は少ないですが、今後生かしていきたいと思えます。私はヤマ場の際に、声の大きさ、トーン、間を空けるなど工夫していましたが、なかなかうまくいかないところがありました。ヤマ場だけでなく、授業の流れ、生徒も考えていきたいです。

②講義「個性を生かす教育を考える」:松下

- ・ 臨床の視点を持って、対応しておくことの必要さを年々感じるようになってきます。集団の中で個を大切にしていくなささ、を感じています。ありがとうございます。
- ・ 子どもたちに、いかに主体性をもたせるか、長く時間がかかる場合もあるが、「見守る」というスタンスが大切だと思いました。また、自ら行動できたと思わせる働きかけが「啐啄」のような内、外の働きかけをしていきたいと思えました。自閉症の生徒に対する認識も変えることができました。
- ・ もう少し自分は寛容にならなければいけないと思えました。本当はそうあらねばそうありたいと思っておりますが、日々の問題行動でそれを忘れてしまっています。本題(主体性と社会性のせめぎ合い)に入るまで少し時間がかかったので、イメージの世界に最初の方は入ってしまいました。
- ・ 主体性というとらえ方を整理すると、これだけわかりにくい人でも理解するポイントが分かるんだと目からウロコでした。「横ならいいんだ!!」これ、思春期の男子生徒との個人面談につかえるなど思いました。とにかく「気づき」のための道筋が分かったような気がしました。
- ・ 特に講義の後半の自閉症スペクトラムの事例については他者を認識していく過程が手にとるようにわかりました。
- ・ 今自分が興味をもって研究している内容と重なるところがあり興味深かった。主体性なのか個性なのか、裏側には何か抱えているのか、セラピストでなくても、子どもに関わる大人には広い視野や余裕がなくてはその子本来の姿と見とることはできないと思った。
- ・ 大変興味深い内容でした。最後のころに臨床事例で提示してくださった事例が迫力があって引き込まれました。前半が理論過多に感じられたので、いくつかの事例を先に紹介し、そのあとに理論や対応策などのお話をしてくださると、さらによかったかも・・・と、思っていました。(構成を変えるだけで劇的に変わる気がしました)
- ・ 1人1人を生かすというか、寄り添うというか、優しいメッセージが伝わってきました。3歳児のケースの話が終末でしたが、これを冒頭にもってくると、ぐっと「つかめた」ように思われました。小学校教育なので、こう思ったのかもしれませんが、たいへん有意義でした。
- ・ 子どもの個性、(本来もっているもの)を自分は理解しようとしているのか・・・と、自問自答たくさんしました。主体性は、これから自己表現してもらうために大切だと思っています。
- ・ 問題行動は本来「したくて」やっていることではない。アウェー感のある子どもや大人をいかに分かってあげるかが、教育の原点であるとお話を聞いて思いました。

- ・ 3歳児の事例が、大変興味深く聞かせていただきました。担任した子どもたちの顔が次々と浮かび、その子たちへの対処法のヒント、アドバイス、賞賛をいただけたと感じました。ぜひ、他の年齢の事例もお聞きしたかったです。現場で接する際の力になると思います。
- ・ 「〇〇君歴〇年」、生徒の姿を本当に捉えようとする際とても必要な見方であると思いました。ありがとうございました。

③ワークショップ

「学校教育における場づくりを考える」：山名・服部

■全体

- ・ リスクとチャレンジの葛藤は、本当に現場にいる教員すべてが共有できるものでした。そのリスクは、しかし一方で、ケガないしそれ以上のことが起こったら、たしかに終わります。それを防ぐのは、日頃からの親、生徒、地域、教員の信頼関係だと改めて実感しました。
- ・ ワークショップで、リスクが想定される場面をグループで共有し、対応案を考えるという活動は、リスクマネジメントを模擬体験でき、興味深かったです。「リスクがあるからやめる」ではなく教育効果の検討と保護者への説明責任が大切だと思いました。
- ・ たいへん興味深く、今日的な課題を扱っていただき感謝しています。職員の「危険ばかりいわず貴重な体験をさせたい」という立場と、管理職の「危険なことはやめてほしい」という立場の対立の構図の根本にはこのようなせめぎあいがあると理解した上で議論がなされるべきなのかと思いました。

■多様な参加者との議論

- ・ 様々な現場の教員の方々の話を聞けて、とても充実した時間になりました！！
- ・ リスクマネジメントについて、どのように周囲の職員たちと認識しあっていくか、普段から意識を高めていかなくはないかと感じました。また、他校種の先生方と交流もでき、有意義だと感じました。
- ・ バーチャルな職員会議、校内でのお茶室の話のようでおもしろかったです。学校・教委という組織を動かすためには、集団の「空気」を変える必要があります。小さな対話を積み重ねることが大切なので参考になりました。
- ・ グループでの話し合いでは、皆で考えていくと、こんなにあれこれ考えをつみ上げられるというよい体験をしました。職場を離れ、余分な感情にとらわれずに話しあえた気がします。

■スクール・マネジメントの視点

- ・ スクール・マネジメントの視点なのか、生徒の個性を生かす視点なのか、どちらを選ぶのか、ワークショップで迷いました。それは良い経験でした。
- ・ リスクマネジメントは校長としてのリーダーシップが問われる課題という要素が強いと思うので、ワークショップというよりも、法、教育行政、学校体制あたりの原理

的なことをもう少し詳しく示していただいた方が、現場としてはより勉強になったと考えます。

■事例設定の仕方

- ・ 事例はあくまで架空のものを示してもらった方がいいと思います。参加者からの事例では、ある意味、当事者は痛すぎると思いました。
- ・ 異校種の先生方と話す機会がこの E フォーラムの魅力の1つだと思っています。今回も、小・中・高・(教委)・大学生と異ジャンルの先生方と共に考え合えたことがよかったです。短時間でしたので、全体で事例を1つに絞って、各グループで議論するのも有りかなと思いました。守秘義務もあり、あまり生々しく話すことにためらいもありました。
- ・ 今年度の内容とは全く違った視点でのワークショップで興味深いものでした。他校種の様々な問題に触れることもでき、よい機会となりました。テーマをあらかじめ絞って話ができるとより密度の濃い話になると感じました。

■時間不足

- ・ 具体例の設定に時間がかかりすぎ、本筋の問いを話す時間が少なかったため、あらかじめストーリーをいくつか設定し、選ばせる方法でもよかったかもしれません。
- ・ 全国からの様々な先生方とグループ討議ができて貴重な時間をとれたと思います。まだまだ時間が足りないくらいだったので、こういった時間枠の機会を作っていただきたいです。(構成はうまくできていましたが時間がなかった)
- ・ リスク・マネジメントの研修でよく行われるタイプの内容でしたが、参加者の経験をもとに話していったことで、いろいろな情報が得られ有意義でした。ただ、そうすると時間不足。深まりがいまひとつでした。もっと話合う活動を深めたかったです。事例を固定化して出してしまうともよいかと思いました。

※学生の回答

- ・ 現職の先生、経験者の先生方のお話をきいたり、話し合い、意見交流に参加させていただいて、とてもたのしく、勉強させていただきました。また、大学で勉強しているだけでは知ることのできない様々な問題があるのだなと思いました。ぜひまた参加したいです。

④講演「教師に求められるワザとは何か」：鈴木

- ・ タクトということについて、初めて認識しました。とても「タクトフル」な講義でした。意識することを続けていきたいです。タクトについてさらに学んでみたいです。
- ・ 日頃から意識していない項目ばかりでした。触覚についても、意識の仕方に変化があること、物の見方も人によって、広さ、深さ、度合が異なる、などです。自身の感覚、触覚を変化させていく必要があると感じました。

- ・ 初め教育的タクトと聞いて、授業の時の発問のような内容かと思いましたが、自分の中の触覚、感覚を育て、そのタクトを、いつ、どこで、どのタイミングで使うのか。経験と理論を合わせて指導していくものだと感じました。日々、考えて自分自身を変化させ、成長していく事が大切だと思いました。
- ・ 変にまとめ上げようとはせず、教員としての今後、数十年後となるかもわからないが、糧と出来るように、迷った時の思いや経験あるいは今後の経験の予測などもきちんと記述できるようになりたいと強く感じました。
- ・ 日々、目の前の子どもと対峙していると、良くない表れやその子の表面に目が行きがちで、本来のその子を見落としていることは多い。経験年数を重ね、どこか経験知で物事を進めることが増えていることを反省すると共に、「記述」という手段で触れるように見る、聞くに迫れるよう一歩を踏み出してみようと思う。
- ・ 流麗な語り口にまず魅力され、そこに鈴木先生のワザを感じました。触覚、触れる知としてのタクトは自分にとって新しい知見でした。小学校教員として、どこまで先生のお話を応用させることができるか分かりませんが、大切なきっかけとして、自分を振り返り、教師としてのワザを磨きたいと考えました。
- ・ 「教育的タクト」は、教師の「幹」「観」「感」を育てる大切なものであることが分かりました。先生の語りを引きこまれながら、あっという間の90分でした。教育技術、方法も大切ですが、鈴木先生のおっしゃる部分「タクトを磨く」こそが重要であり、それをどう育てていくか(自己の中で)。私の立場からすれば、どう研究として、子どもの姿として見せていくか、どう次の世代の教師に伝えていくかが課題であると思いました。
- ・ 人との距離感を取る、自分の立ち位置を知るには、とにかく意識するしかないと思っていたが、速読と遅読をくり返すなど、行動することで、感覚を再度組み換えることができるという発想は目新しかった。教師として実践するだけでなく、生徒にもそういう機会を与えていきたいと思った。
- ・ 普段感じていたけれども、言語化したことのない部分について、いろいろな形で指摘していただき、気付かせていただいたと思います。刺激的でした。
- ・ 生徒の学びをどう見とるか、という観点で、後の評価の話につながっていくのかなと思った。感心・意欲・態度を評価するにあたり、見えないものを見えるようにしていくことが必要だと思った。具体的な方法としてビジョン・マップの作成・更新が示されていたので、具体物として拝見し、生徒の学びを見とる方法を学びたい。
- ・ 教師として「タクト」を磨き続けることの大切さを感じた。今の私はどんなタクトを持っているのか、どのくらいタクトを磨くことができ、使っていくことができるのか、不安になりましたが・・・がんばって磨いていきたいと思えます。

⑤講義「パフォーマンス評価の到達点と課題」:西岡

- ・ パフォーマンス課題とルーブリックづくりについて、もやもやしたものがずいぶん晴れました。自身の教科においての実践を具体的に考えていくモチベーションを高めることができました。ありがとうございました。
- ・ 一番楽しみだったのですが、わからない(いまいちつかめていない)言葉が多く、理解がおいつきませんでした。本を読んでも(1冊ですが)わからなかったのが、今日くればわかると思ってたので残念でした。勉強してきます。そして来年またリベンジします!
- ・ パフォーマンス評価や逆向き設計論についてコンパクトにまとめて事例も踏まえてあって再認識できました。テンプレートを活用したらいろんな教科の授業に当てはまるがあるので、今度は挑戦してみようとして新しい目標ができました。先生の熱意に刺激を受けることができました。苦手な CDDB にチャレンジしてみたいです。
- ・ 改めて、普段の授業が知識面に特化してしまっていると反省した。生徒にとってかなり大変な課題を与えなくても、こちらの工夫でもっと教科の本質を伝える授業ができると思う。また、教科の枠を越えてもっと他の先生方と目標を明確にしていきたいと思う。
- ・ 何回か説明をお聴きしつつ、ようやくわかってくる部分がふえました。実践しながら、また、話をお聴きして、のくり返しは有効です。
- ・ パフォーマンス課題というものが自分の中でどのようなものか、まだまだわからないところがあったのですが、一歩前進できたと感じました。
- ・ 「永続的な理解」「本質的な問い」について、自分の教えている教科、単元、教材にもとづいて考えるとどうなるのか、ということがなかなかわかりません。つまりこれは、自分が何を教えているのか自分自身理解していないということでしょうか。またこれから考えていきます。
- ・ 高校英語科の「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」「英語表現Ⅰ・Ⅱ」では、著しく課題提出が多くなり、教師は評価方法や基準を細かいところまで検討する時間もなく、ただ提出したか否かで点数をつけているような状況です。これで本当に生徒に力をつけてやれているのかと疑心暗鬼なモヤモヤ感を皆抱えています。「天からスタンダードが降ってこないかなあ」と私は正直思っています。(ごめんなさい)今日の西岡先生の御講義を拝聴して、もう一度襟を正して考えようと思いました。
- ・ 指導要領の改訂動向を含む最新情報と、今までの研究成果のつながりを簡潔に教わった。筋道がわかった。具体例のポイントを解説していただき、どこを、どのように見るのかを教わったので、活用していきたい。

※学生の回答

- ・ 私は大学院でパフォーマンス・ポートフォリオ評価の研究をしています。西岡先生の書かれた真正の評価

に関する本は全て持っています。本日はお会いできてとても勉強になり感動しました。西岡先生の講演を参考にし、実践を行います。ポートフォリオの利点を生徒が自分自身のことがわかる、評価は一方的なものではないなど、西岡先生の考え+αを返せたらと思っています。

⑥シンポジウム

「パフォーマンス評価の可能性を探る」

■全体

- ・ 3名の方の報告がとても刺激になりました。石井先生の最後の話はとてもよく分かりました。こういう発表がきけるのがEフォーラムのよさです。
- ・ 理論上では何となくつかみかけていたパフォーマンス評価について、3人の方のお話から理解を深められた。逆向きでの設計(後戻りアプローチ)の必要性は最近考えるようになったが、今日の事例からその意味を実感として感じられた。教師の少しの発想の転換が新たな可能性が広がると感じた。
- ・ 3つともすばらしい実践で感動しました。自分がやってきたことに不足していた「振り返りの大切さ」、「課題は1単元に1つではない」ということに気づかされました。柔軟にとりくむことによって、パフォーマンス課題実践の楽しさがわかってくるかもしれません。
- ・ 具体的でわかりやすかった。フロアとの質疑応答の中で、自分がどのように理解したのかを、リフレクションすることができた。
- ・ 具体的な実践をもとに考えを伝えていただいたので、興味深く話を聞くことができました。どの校種でも、リアリティのある課題を実態に合わせて設定することが子どもにとって大切なことなのだと感じました。
- ・ 実際に実践されている先生方のお話は自校の研修をふりかえるにあたり、大変参考になりました。ただ、やらなければならないことが多く、何からやればよいか考えていかなければならないと思います。来年度のE.FORUMでも実践例をお教えいただけたらうれしいです。

■佐藤綾子先生へ

- ・ 佐藤先生の報告で、算数の授業がここまで広げることができるのか、と感銘を受けた。とても活発な子どもたちの様子が浮かんできた。私の授業でも生徒どうしが発言しやすい、そして学び合える工夫をさらにしていこうと思う。
- ・ 小中の実践を知ることができていい刺激になりました。小学校の算数は私自身中学で教えているので遠いことのように思っていたのですが、実際話をきかせていただくと、中学でもとり入れられそうなことがあるなと思いました。

■田上貴昭先生へ

- ・ 田上先生の報告で、学校全体として目標を持って取り組んでいっしょにやるのが実感できた。教科の枠をこえ、

教員間で共通認識をもつと学校としての魅力が増すと感じた。

- ・ 熊本大学附属中学校田上教諭の実践報告に圧倒されました。特に、体育の授業で考える力の活用を見えていただけたのが印象的でした。

■糸賀帽子先生へ

- ・ 業務として教員の育成をしています。看護学生に成人教育ととらえて取り組まれていることをうかがい、教員の育成でもその視点が大切だと再認識しました。とかく初任者指導教員はそのきりかえができていないので、対子どものように支援している課題があるので、どうやって指導者の意識をかえるか考えてました。
- ・ あじさい看護福祉専門学校さんの発表において、経験の意味付けの大切さが分かりました。実業高校においても、必要な、事柄が多くあると感じました。
- ・ 最終的に求める姿(ゴール)を見極めて、パフォーマンス課題やルーブリックを作っていくことで、自信をなくしていた専門学校生の方が自分にも自信を持つていく姿が印象的でした。それを作りあげた先生の「ふれる感覚」のある教育への情熱を感じ感動しました。
- ・ 糸賀先生の報告で、「考える力」は小さい頃から強化しないとなかなか身につかないのではないかと自分の考えが少し変わった。特に自己評価の低い生徒に対して、パフォーマンス評価等を通して自信を身につけさせることができれば、能動的に動くことができるのではないかと考えた。

⑦その他

- ・ 教職を長く続けてきて、今こそ学びたいし、現場の経験を次の人たちの育成に少しでも役立てたいと思います。こんな楽しい会とは知りませんでした。来年も是非参加したいと思います。ありがとうございます。
- ・ 校務があり半分しか参加できなかったことが大変残念です。でも、何回か参加するなかで、パフォーマンス課題、パフォーマンス評価が深まってきた。また、学校種が異なる人が参加する中で行われるこのような会はとても有意義におもいます。
- ・ 「研究科長のあいさつ」京大の教育学としての思いが伝わってきて、今回の研修会がとても幅広いものに感じました。

5. 研修全体についての評価(抜粋)

①自身にとっての成果

■自己の振り返り

- ・ 自分の経験や業務をふりかえることができた。
- ・ 慣れと小手先の対応でゆるい日々を過ごしがちだったので、自分にもできることがあるかなと、これからの教師生活へのやる気を高めることができました。何となく、無難に過ごしている毎日は、これまでの経験の副産物かもしれませんが、そこに止まっていたは、教師として生きてるのにもったいないと思いました。

- ・ 日頃の自分の取り組みを振り返ることができたこと。大切なことを再確認することができたこと。
- ・ 夏休み明けに子どもと向き合いながら日常を過ごしていくための活力が得られたこと。今までの自分の実践を振り返り評価することができたこと。
- ・ 教育の原点のようなものを改めて実感できました。今回が教科という枠組みから離れて、生徒への思い、生徒からの思いを考えることができました。
- ・ 自分自身の教育現場で生徒に向かう意識の置きどころを変えていく機会を得ることができたこと
- ・ 自分自身への動機づけとなった。教える立場としての、自分自身のパワーを充電することができた。
- ・ 日頃の教育実践を理論と照らし合わせることで今後の実践計画に修正、追加ができること。

■新しい視点や知見

- ・ パ評の実践を中核に、哲学、心理学、経営学の関連領域を学べた。
- ・ 教科指導の視点や教育的タクトの考え方など、日頃の職業生活の中ではなかなか気付かない考え方などを知ることができると。視野が広がります。
- ・ 「若い教師に伝える」「教師に求められるワザ」について新たな視点が得られたと思います。「パフォーマンス評価のこれから」もでした
- ・ ”タクト”という考え方を通して自己を見直すきっかけになった。
- ・ 授業や教材、評価について具体的に提案されたことにより、様々な気づきがありました。明日からのエネルギーとして頑張りたいと思います。
- ・ ぼやっとしていたことが、少しはっきりした。違うもの見方、違う角度からのアプローチを与えてもらうことによって、自分の考えを深めることができました。
- ・ 主体性の形成方法を知ることができた。段階があるので成長とともに形成することが大切である。
- ・ 教育の実践を高める方法をくわいて教えてもらえたことで、とくに、判断したり、見きわめたりという、あきらめていたことをみがけると思えたことが、一番の成果です。
- ・ そもそも何のために教育するのか、何のために学校があるのか、という根本的な問いに立ち戻れたこと。

■パフォーマンス評価関連

- ・ パフォーマンス評価について勉強したくて参加しました。かなり霧が晴れました。もう一度、これまでに読んだ書籍を読み返して、実践へのアドバイスができるよう努力したいと思います。
- ・ 逆向き設計の実践方法
- ・ パフォーマンス評価やルーブリックについて、なんとなくわかった気になっていたことが、ようやくはっきりとしたように思います、これから授業改善に取り組みます。
- ・ パフォーマンス課題が様々な校種でもこのような様々な切り口でできるのだ・・・と可能性を感じました。
- ・ パフォーマンス評価を取り入れる際、どのように校内

に提示するか、ヒントを得られた。

- ・ パフォーマンス評価、パフォーマンス課題の理解がだんだんと深まってきた。

■参加者との交流

- ・ 他県、他校種の先生方と交流ができました。その中で、自身にはなかった考え方などを教えていただきました。
- ・ 教員志望の学生と話ができること。
- ・ 他地域の先生方から、様々な事例、(実際の解決策)を聞けること。
- ・ 全国の先生方と交流し、なやみや実践を共有できて、たのしかった。
- ・ 自分自身の研究心に刺激をもらえる重要な「学び場」の1つです。参加者が皆、意欲的でとても心地良いです。
- ・ 意識の高い先生方と交流することで刺激をもらい、2学期、3学期に向けてやる気みなぎりました。
- ・ 様々な地域から集まってきた多様な考え、実践をお持ちの先輩方と話ができたこと。
- ・ ふだんなかなか他校の先生方と交流する機会がない。いろんな実践報告を聞いて自分の中に取り入れることができる。

②自身にとっての今後の課題

■授業づくり・授業改善

- ・ 生徒が「考える」ことを意識する授業について考えていきたいと思います。
- ・ 思考力、判断力、表現力を育成する教科指導と、評価のあり方の研究と他の先生方との情報の共有。
- ・ 評価と授業の距離を近づけられるように。「どういう授業をしたいのか」からスタートする授業をつくる。
- ・ 主体性に働きかける方法。自律的学習者を育てていくための手立て。
- ・ 教科を超えた連携の可能性。生き生きした、楽しめる授業と、それを通じた自ら学ぶ力をはぐくむにはどうすればよいか？
- ・ 高校歴史教育にどのように思考力を養う授業をとり入れていくかをいま考えています。
- ・ 教科指導で、知識の詰めこみに偏りがちなので、子どもが主体的に活動できる工夫を深めなければならないと思う。
- ・ 生徒のやる気を引き出すしかけを考える必要性を感じる。
- ・ 自分の授業を改善していくこと。今日学んだことを、他の先生方に伝えていく力を身につけること。

■パフォーマンス評価関連

- ・ パフォーマンス課題の作成にあたり、その課題が妥当であるかの判断がしにくいと感じています。
- ・ 習熟度別算数授業において、真正の評価をどう取り入れていくか。”
- ・ パフォーマンス課題(思考、判断、表現)とは何か、自

分の企業勤務経験もふまえて考えたい

- ・ パフォーマンス課題をどのように作るか。
- ・ 学年間でのつながりを意識した理解、とくに図形での永続的理解を自分なりに考えていきたいです。
- ・ パ課の作り方、ルーブリックの作り方がまだできない。本質的な問、永続的理解の把握、理解ができていない。
- ・ 学校現場(高校)で、授業研究をすすめ(パフォーマンス評価も含めて)評価のあり方を改善していくこと。
- ・ 英語科としてパフォーマンス評価の導入、また校内体制を整えて今後、評価についての研修をすすめる。
- ・ 担当教科での各単元でのパフォーマンス課題を作成すること。
- ・ 全教科領域における評価を強調した授業づくりのための全体提案作成。(全校体制の・・・)
- ・ 高校国語の指導事例を作っていくこと。今年度は古典で、パフォーマンス課題づくりと、どのような能力を育成、評価できるのかの検証を行っていきます。
- ・ ルーブリック作り。小中高の系統性。
- ・ 評価のあり方、仕方について、学び直して実践に活かしていきたい。

■学校運営

- ・ 大きく変わる環境(物の豊かさ、保護者の姿勢など)に対して、学校運営をどうやりくりして行くかが課題です。教員のモチベーションをどう向上させて行くかも課題です。
- ・ 学校全体で子どもを育てる視点を学校全体職員で持つこと。(見える)
- ・ 学校運営のあり方について

■校内研修・教員研修

- ・ 若手教員の研修の企画をしています。どうしても速効性のある研修が望まれる傾向にあり、悩むことも多くあります。漢方薬のように、長期的に教員を育てる、自らを育てる手法と体制づくりを考えていきたいと思えます。
- ・ 校内研究(現職教育)の中にEフォーラムでの成果をどのように取り入れていくか
- ・ 中堅教員として若手教員の指導と本研修のような校外研修に参加し他校種の教員との交流
- ・ 小・中でもパフォーマンス評価を含めた様々な取組に興味を持ち、実践してみようとする教員を育てる必要があると感じました。
- ・ 研修内容の精選と、内容のレベル UP、及び受講者の満足度向上。
- ・ 校内研修にどのようにして「パフォーマンス課題」「ルーブリック」「逆向き設計」などの考えをわかり易く伝えていくか・・・です。校内研修主任として、どうしたら「取り組んでみるか・・・」と言ってもらえるか悩んでいます。

■教育的タクト

- ・ 「教師のタクト」をもっと考えたい。そして今後の業務の企画に生かしたいと考えている。

- ・ 自分のタクトを磨く努力、意識(自分のものの見方、立ち位置、見極め方)の置きどころを変えていきたいと思えます。
- ・ 仕事や家庭でも、タクトの話はいかしていこうと思えます。
- ・ 私の教育的タクトを磨いていきたい。個人で磨くだけでよいのか?学校としての教育的タクトを磨くには?
- ・ 自分自身の”タクト”について見直していきたい。
- ・ 触覚的な感覚を取り戻すための記録を取っていききたい。その中で授業改善につながる糸口などを見つけていきたい。
- ・ 経験を糧にできるように意識していきながら思考して感覚を磨いていこうと思いました。

■その他

- ・ 「教育的な保護」を考慮した挑戦
- ・ 危機意識の全職員での共有化
- ・ 新指導要領の方向性
- ・ 内容とともに評価も論じられるか?
- ・ 育成すべき資質・能力とは何か?
- ・ 「教える」という行為の継承
- ・ もうすぐ退職する立場なので、自分が先輩から受けついで文化、技法をどのように若手に伝えることができるか。
- ・ 教育という現場にいたのにもかかわらず、教育の本質を知らなかったように思います。あらためて、いちから勉強し、経験と理論を学んでいきたいと思えます。

※学生の回答

- ・ 経験が足りないこと。私は学生なので現場は実際、インターンでしか経験していません。知識や現場の話を聴けますが、実践の機会がなくそれを生かせない。自分から行動し、実践できる場探しは課題です

③研修の良かった点

■研修の内容

- ・ 講義のどれも高いレベルにありながら、本質論的なことが多く、とても、ためになりました。
- ・ 異なる学問分野の先生方のお話しが伺えること。多くの先生方と出会えること。
- ・ 教育を周辺領域を含めて広い視野でとらえられている。
- ・ 事前に本を見てみたのですが、教育学で使われる用語にうとく、全体的に理解しにくかったが、講義では大変わかりやすい言葉にいただいたのが、本当によかったです。来てよかったと思えました。(理解できてうれしいと思えました)
- ・ まず多様な講師の先生と、豊富な研修内容につきると思えます。
- ・ ワークショップ形式が面白かった。
- ・ 今まで参加したことのある研修に比べて、非常に実践的で、内容も実際の状況や課題に即したものであり、日頃、考えていたことを系統だてて整理して下さって

いるような部分もあり、よかったです。今後活用していきたいです。

- ・ 幅広い分野の先生方のお話が聞けること。
- ・ どの発表者も「学ぶ」ことを楽しんでいる!!といつも感じます。「人さがし」ありがとうございます。
- ・ ワークショップはとても良いと感じました。次回もお願いしたいと思います。
- ・ 自由な雰囲気と高い専門性が一体となっているところ。
- ・ 現在の自分が直面している課題にぴったりです。
- ・ バリエティに富んだ京大の先生方の分野の話が聴くことができること。異校種の先生方の話も貴重です。
- ・ 新しい知見を講義形式でうけとれる。
- ・ 多様な内容があり、幅広い知見を得る場となっている点が良いと思います。
- ・ 幅が広い視点で、自分の仕事や生活に生かしていきたいと思いました。
- ・ 様々な視点での話や実践に触れることができる点。
- ・ さまざまな校種の実践例、一つ一つ魅力的なものでありました。
- ・ ワークショップを通して、様々な事例を学ぶこと。(具体的な解決案含む)

■研修プログラムの構成

- ・ ワークショップと講義のバランスの良さ
- ・ いろいろな分野の先生が研修をデザインしあっている。でも、どしどし太い軸がある。
- ・ 様々な角度からの講演やプログラムの工夫で、とても有意義で、リピートしたくなります。
- ・ 思考する場あり、経験知を共有する場あり、興味が持続できる工夫があり、とても充実しました。
- ・ ワークショップ、講話、シンポジウムと多様な方法が入っていること。
- ・ 毎回、新しい知見を得られること。(講演者やプログラムの展開が工夫されていると思います。)
- ・ シンポジウム形式で、理論と実践が学ぶこと。
- ・ 講義と実践事例紹介のバランスが良かった。

■多様な参加者との交流・自由闊達な議論

- ・ 1日の最初に自己紹介タイムがあり、参加者がどうい立場で何を学びに来ているのかを知ることができること。
- ・ ワークがあり、発表者との距離感が近く、参加実感があつた。
- ・ ①ワークショップがあり、受動的な研修ではない点です②年齢や地域が違えど、同じ取り組みに興味がある人同士で、つながりが形成できること。
- ・ 皆で考える場になっていること。
- ・ 自分たちで実際に活動していく点
- ・ 多様な豊富なプログラムの中で出来るかぎりのワークショップ、コミュニケーションタイム交流もでき有意義な時間をいつも感じています。
- ・ 参加される先生方、スタッフの方、すべての方が前向

きでその場に合った話ができることが私には刺激になります。校内研修では「温度差」が大きくふみこめないこともあるのですが、この研修では自分の考えや思いをすごく出しやすいです。

- ・ グループワークについては、全国様々の先生と話ができてとても貴重な場となりました。県内の研修とは一味違った雰囲気です。
- ・ 自由に意見を出せたり、発表できたところですよ。
- ・ 色々な見方を提案してくださることで。
- ・ 講師の先生方、全国の熱意ある先生方と、ゆっくり話ができ、元気になれる。
- ・ 全国の先生方と交流ができ、講義やワークショップでまた新しい視点を得られること。
- ・ 2日目の研修だったので、講師の方のお話が沢山聞くことができ良かった。他校の先生と交流のできる時間がある。

■研修の運営

- ・ 時程がゆっくり組んである
- ・ 昼休みが長かったので、その中で考えたことをまとめたり、議論し、自分の中におとし込む時間がとれた。
- ・ スライドが2ヶ所あり、わかりやすい。

④研修の改善すべき点

■研修の内容

- ・ パ課の作り方のスタンダードがもし、あるのでしたら、研修を受けたい。逆向き設計、パ評、パ評入門など、本はよんでいるところですが…。
- ・ 教科、をもう少し意識できる時間があれば、個人的にはうれしかったです。特に不満はありません。
- ・ 今日的教育課題を1つテーマとして取り扱っていただけるとさらによいと思う。(できれば)
- ・ グローバル化、コンプライアンス、コーチング、若手育成等。

■時間不足

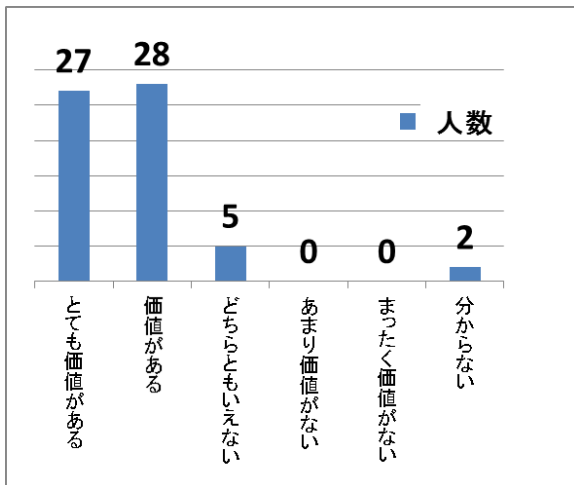
- ・ 全体的に時間が足りないと思ってしまいました。もっとワークショップを行って様々な人の考えや交流を深めたかったです。
- ・ 昨年よりも日程的に詰まっていたように感じました。
- ・ テーマの絞り込み。せっかく熱心な先生方が集まっているので、深められるような絞り込みや時間の設定がされるとよいと思います。
- ・ 8/19の午後のワークショップは他の先生方のこと聞いたり尋ねたりしているだけでも時間がどんどん過ぎてしまい、課題について話し合いをする時間が全然足りなかった。
- ・ 初日の開始時間を30分遅くして欲しい。当日出発ではかなり時間がタイトであった。
- ・ 平日の2日間で参加しやすくなりました。一方で、かけ足で1つ1つの議論を進めなくてはなりませんので、この会の「ゆったりとした雰囲気」のよさがやや減ってしまったと思います。昼休みを短くする、1日目

の夕方6時までやる、2日目の朝を早くはじめるなどいかがですか。

■その他

- ・ 最初の自己紹介の時間が、3人では持て余してしまいました。もう少し短くてもいいのでは、と思いました。
- ・ 突然の指名はスリルがありすぎるかな(?)
- ・ 教員を目指す学部生や経験の浅い若手教員が数多く参加出来るとういと思います。
- ・ パワーポイントの1枚1枚の情報量が多すぎて、しかも速く変わる印象です。もっともっと精選してお伝えただくとありがたいです。(聴講する私の力不足が大きいのですが。)
- ・ 参加者の名簿一覧があると良いと思いました。(所属と名前くらいで良いので。)
- ・ スライドのポインターを2画面用の物にしてはどうでしょう。
- ・ 前のスクリーンが見えにくい点。灯りを一番目消した方がよいと思った。
- ・ 照明の関係?か、スクリーンが見にくいことがしばしばありました。手元の資料で分かりました。

6. 「E.FORUM スタンダード(第1次案)」についての評価(グラフ)



7. 「E.FORUM スタンダード(第1次案)」についての評価(自由記述)

良いところ(抜粋)

- ・ 各領域・学年の本質的な問い、永続的理解の例が載っているので、考えるきっかけが提供されている。
- ・ 同様にパフォーマンス課題例が載っているので、imageしやすい。
- ・ 本質的な問いや、永続的理解の例が多くあり、参考になります。
- ・ 縦のつながり、系統性が見えるところ。
- ・ ほとんどの教科の案が載せられているので自分で実践する際の参考にしやすい。
- ・ 他教科との関連性、各教科の系統性をひと目で理解

できる。

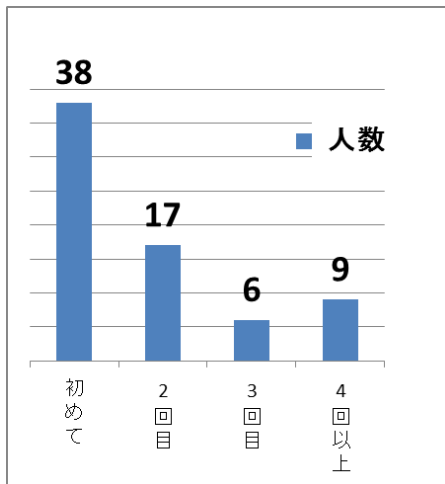
- ・ 昨年度参加した時に述べたことが生かされており、ありがたいと思いました。(小学校、社会科)
- ・ 「単元の本質的な問い」「永続的理解」などの書き方を他の先生にも示せること。
- ・ 案を見せていただいたときには、時間的なものもあり、勢いで見てしまいました。完成したのを見てみると、あまりに現実路線となり、「夢」の部分を私が削ってしまったのかなあと反省しています。1次案をたたき台にして、より多くの実践が、加算されていくといいですね。
- ・ 「永続的理解」「本質的な問い」が各教科において示されることがすばらしいと思います。各教科でのものが一つにまとまっているスタンダードはとても参考になると思いました。
- ・ 総合学習のヒントが欲しい時などに参考になる→多くの教科が載っているの。

改善すべきところ(抜粋)

- ・ 校種別というより、連携した形で「本質的な問い」を示した方が義務教育全体を見通した子どもたちが身につける資質能力に結びつくのではないかと感じました。
- ・ 初心者がこれを見て、いきなり授業はできないし、授業のimageがもてないので、一単元分は、指導計画を例示するとよい。
- ・ 体育科、保健体育科において、ぬけている学年の部分の扱い方を今後どのように取り扱うのか指針があると助かります。小4の部分がとても気になるので、北原先生、よろしくお願いします。(北原先生とお話して、本質的な理解について少し理解できました。)
- ・ 教育学の研究会にいくと、ほとんど小中です。ぜひ高校のところも増やしていただければ!!切に望みます。
- ・ 第1次であるので、今後、これを活用し、修正していく過程が大切だと思います。実践例をもちより、それに当てはめて、照らして見る、検討するという作業をもよいかもしれないと思いました。(改善点ではなく提案ですが)
- ・ 今後の資料の蓄積。
- ・ 教科により、実践の数も質も差がある。多教科の取り組みの充実から見えてくるものもあり、少ないところの実践の充実がされるとよいと思います。
- ・ 今後、実践によって改善されていくことに価値があるのだと思います
- ・ 実際にこのスタンダードに基づいて取り組んだ学校からの課題として明らかになったことなどをまとめていただくのはどうでしょうか。
- ・ 利用したり、読んだりしてこれから自分の授業につなげたい段階。

- ・ 小学校理科の課題なのですが、課題が長すぎて少し複雑なように感じました。
- ・ 新カリに合わせて、多少修正すべき箇所があるだろうし、小・中・高・(大)を通して見直す必要があるのではないかと思います。
- ・ 生徒の学力学校間格差があると思うが、一例としてその課題におけるルーブリックもあるとわかりやすいです。
- ・ 教科によって表し方に違いがあるので、比較しながら読みとるのに時間がかかる。
- ・ 課題(パフォーマンス)を取り入れた単元の作り方。

8. 回答者の E. FORUM への参加回数



9. E. FORUM へのご意見・ご要望(抜粋)

■研修内容

- ・ 総合、道徳、特活
- ・ 学級経営
- ・ ポートフォリオ
- ・ 目指す学力
- ・ パフォーマンス評価
- ・ 言語活動、評価方法など文科省は様々な指針を示しておりますが、なかなか、実践が追いついていない状況だと思います。E.FORUM を通して、こういった実践方法を具体的に提供いただき、ありがたく存じます。今後さらに充実しますことを望んでおります。
- ・ カリキュラムマネジメントや、学校経営(学校評価)という視点の内容も加わると、普段、学校には気づかない考え方を知る機会になると思います。(既に、この内容は、以前にあったかもしれませんが)
- ・ ずっと以前「学校の自己点検、自己評価」の講義がありました。当時私は 40 代半ば。「こんなことも勉強しなければならない」と思いました。今回同行した本校職員もこの年代になっています。スクールリーダー研修には、こんな要素もあるといいのではないのでしょうか？
- ・ 評価方法のポートフォリオについてぜひ詳しく取り上げてほしいです。思考の流れを大切にしたいノート指導などにも結びつくかもしれない興味をもっています。パフォーマンス課題の作り方が知りたいです。いつも悩んでいます。
- ・ まだ、今回の研修を消化しきれていないので、ごめんなさい。山名先生と服部先生のワーク・ショップのまとめを HP にアップしていただけますと今後の勤務に活かせます。よろしくおねがいします。
- ・ 今回同様実践発表は続けてほしいです。
- ・ 西岡先生のお話、もう少し長くを希望します
- ・ 教育哲学は(今回は鈴木晶子先生でした)面白いです。様々な切り口で先生方のお話を伺いたいところです。
- ・ 「教師力の向上に向けての取組」をさらに勉強していきたい。
- ・ 単元目標と評価規準と評価基準の考え方
- ・ タクトについて、もっとお話がききたかった。

■E.FORUM スタンド(第1次案)

- ・ スタンド 1 次案について、集中的に議論する場があると 1 次案が「2 次案」「試案」になっていくかと思いました。
- ・ 高校のスタンダード作成。
- ・ 楽しく、元気の出る 2 日間となりました。ありがとうございました。第 1 次案については、十分に見る時間がなく、また、高校については英語のみということで、現在のところ意見はありません。

■その他

- ・ 一度参加すれば、ずっと連絡をいただけるというのは、大変助かりました。
- ・ 先生方の著書がその場で購入できると良いと思いました。
- ・ 学会大会時のカードのように、申し込みの中に、「関心のあるテーマ/分野」など「ひとこと」のついた名簿があると、交流が広がるかと思います。「県」「氏名」「校種」「ひとこと」(もちろん、強制ではなく、申し込みの時点で OK する方のみですけど、いかがでしょうか。
- ・ 今回も内容がとても充実していて、おなかいっぱいになりました。前回とはちがう立場や視点で話を聴くこともできました。また何か一つ 2 学期から実践してみても、また来年も来させてもらいたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 京都大学に来て、2 日間参加でき、今後の自身の成長に役立てたい、と同時に、日本の未来が明るくなる教育を実践していきたいです。ありがとうございました。
- ・ 初めて参加させて頂きましたが、講義等の内容も大変ためになるもので、参加して本当によかったと思います。そして何より、全国各地で様々な先生方が熱心に取り組みをされている様子に触れることができたことが、またこれからの自分の励みになるなあと感じました。ありがとうございました。
- ・ 2 日目から参加させて頂きました。鈴木先生のお

話は、じっくり体に浸透するお話でした。またシンポジウムでは、ていねいな実践をおきかせいただき、大変参考になりました。ありがとうございました。毎回楽しい企画をありがとうございます。

- ・ 普段、学校現場で埋没していると、出会えないような話、経験のつみかさねを、理論を学ぶことで、補強できたり、位置付けたりできるようになってきたので、何でも学びたい。
- ・ パフォーマンス評価に出会って10年近く経りましたが、今も新鮮で、教育の本質についていると感じます。グループで話した時に、評価は子どもにとってもろはの剣になっているという意見もきいたんですが、これまでの評価だと、子どもは手さぐりで進んで、先生の反応伺って、あーだめかと自信なくして、というものがあつたけど、パフォーマンス評価で、教師も子どももどういふ姿になるのかというゴールをしっかり見て、こういうのをやってみたいという好奇心をもって、ルーブリックを意識しながらやっていく中で、知的な発見や自分自身の新しい発見や成長を感じるから、楽しい!!もってやってみて!!次は!という気持ちが育っていくんじゃないかと思えます。そういう点で、小学校でももっと広げられると思いました。ありがとうございました。
- ・ 鈴木晶子先生の御講演を聞いた後、お昼を食べながらボーっと考えていたところ、「なぜ京大に来るのか? (暑いのに)」に対する自分なりの答が見つかりました。それは「教育を考える」にしても、自然と生涯(whole life)を見据えて考えさせてくれることです。長い歴史の中で数え切れない生死を受け入れてきた京都という土地の懐の深さからか、「生きる」という営みの中の「教育」の役割を改めて考えようと思えることができました。西岡先生はじめスタッフの方々、毎回御尽力いただき、心から感謝しております。

「第10回実践交流会」

1. 参加人数

3月28日 32名

2. 実践資料を提供して下さった先生方へのメッセージ(抜粋)

- ・ 工業高校で中学の理科ともつながる内容でした(物理)。作り方や方法を考えて表現し、実際にそれで作れるかどうかという観点での評価。学習したことを総合的に生かして使うというのが、目に見える形ででて、本当の力がわかりやすいなと思いました。
- ・ 工業高校におけるパフォーマンス評価の実践を見聞きし、有効性を強く感じました。パフォーマンス課題がまさに職業につながる課題であり、真正な学びを生み出していて、求められる本物の学力を育てようとしていると思いました。私も必要感のある真正な課題をつ

っていきたいです。

- ・ 歴史学習と美術の合科に基づいた実践と、その成果のレベルの高さに驚いた。
- ・ 日本史の学習にビブリオバトルが取り入れられ、アクティブな学びを展開されていたことが大変参考になりました。
- ・ 高等学校における文学教材の可能性を改めて実感いたしました。評価の方法についての悩みが共有でき、自身の追求していきたいテーマとなりました。生徒のノート、論文集は圧巻です。
- ・ 小中の接続の内容と、writingの指導のポイントが参考になりました。今後の実践に生かせそうです。何より教師が楽しむということが第一ということを確認できました。
- ・ ラウンド・スタディを実施しての経験を聞け、自分が研修にとり入れる時のイメージがつかめました。
- ・ 研究授業の研究協議、研修等で活用できるラウンド・スタディの技法、及び実践について学ぶことができました。様々に実践してみたいと思います。
- ・ 学ぶ意欲を高める取組、子どもの学力調査から目標を設定し、目標に到達するためにどのようなカリキュラムづくりを行うか、授業をどう組み立てるか、教材・教具の検討、授業のルールの提案など学習指導と生活指導を合わせて指導すること。なぜこの学力が低いのか ex)学級崩壊し、授業が成立しないところが下がっている、など多方面からのていねいな情報収集におどろいた。
- ・ 時間がどうしてもかかる評価をいかに効率よく進めていけるかが参考になりました。また、同じグループに小・中学校の先生の話も聞いたのも貴重だと感じました。

3. 意見・要望・感想など(抜粋)

■異校種の参加者との交流

- ・ 本当に様々な実践に触れることができました。偶然ですが、小・中・高の国語科がそろったグループでしたので、初等・中等教育の「国語」の位置づけを改めて学ばせて頂きました。
- ・ 小・中・高と、また専門もちがう先生方とパフォーマンス評価の実践での共通点、差異点を話し合えた。たいへん貴重な経験となりました。ありがとうございました。
- ・ 途中から参加させていただきましたが、実践した資料をもとにした話し合いのため、内容の濃いものになり参考になりました。また、小中高の違いもよく分かり、各発達段階でどう取り組めばよいかについても考えることができました。今後ともよろしく願います。
- ・ 理数以外のグループにも参加したいと思いました。準備等、大変だったと思います。ありがとうございました。

■モチベーションアップ

- ・ ありがとうございました。初めて実践交流会に参加しましたが、次回も参加したいと思いました。この人達とい

っしょに仕事がしたいと本当に思います。自分のモチベーションアップになります。また明日からがんばれる気がします。

- ・ 今回参加できたことを幸せに思います。多くの先生方が継続して参加されている様子を拝見しました。ネットワークを大切にしていきたいと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

■時間設定

- ・ 実践交流も今日ぐらい時間がないと、ゆっくり話し合えないということがわかりました。いつも端折っているので、5人でもこれぐらいいるんだなという感じです。
- ・ 5人グループで半日(with 弁当)ゆっくり話せた本日の時間設定はよかったです。評価基準の設定が難しいという話がでていました。

■提案

- ・ 実践交流のスタイルを大きく変える必要はないと思うが、事前に「その他」も含めた小グループのテーマを示してもよいかとも思います。「その他」については、積極的な「その他」で、このことについて実践をもってくるので議論したいということが言えるところ。
- ・ 小グループでの成果物(ニューズペーパーのようなもの)をつくることを目的としてもよいのではないか。それをつくる人(現場からの参加者)が半スタッフとして、小グループをとりしきることになるのも有り。